

pon

kanpi-sos

ポン カンピソシ



7

アイヌ文化紹介小冊子

芸能



本書のねらい

北海道立アイヌ民族文化研究センターでは、国連の定めた「世界の先住民の国際10年」への取り組みの一環として、1995（平成7）年度より、アイヌ文化を紹介する小冊子を毎年1冊ずつ刊行しています。

これまでに、第1冊目「イタク 話す」で言葉を、第2冊目「イミ 着る」、第3冊目「イペ 食べる」、第4冊目「チセ 住まい」で衣・食・住を、第5冊目「イノミ 祈る」で信仰を、第6冊目「ウエネウサラ 口頭文芸」では口頭で伝承されてきた物語について紹介してきました。

この第7冊目では、芸能についてとりあげました。アイヌの芸能のあらましについて、歌や踊り、楽器のいろいろなどを挙げながら紹介しています。またアイヌの芸能について学ぶための文献や、実際の歌や踊り、楽器の演奏などを見たり聞いたりできる資料や施設などについて紹介しています。

ボン カンピ ソシ
pon kanpi - sos 小冊子
小さい 紙 束

目次

[1] アイヌの芸能のあらし	2
[2] 歌と踊りと楽器	8
1 歌と踊り	10
2 楽器のいろいろ	16
[3] 芸能について学ぶために	22
1 文献	22
2 視聴覚資料	24
3 博物館など	28

[1] アイヌの芸能のあらまし

アイヌ民族が育んできた文化の一つに、様々な歌や踊りなどの芸能があります。

どの民族にも、それぞれが育んできた歌や踊りなどがあり、お祭りや儀式の中で演じられたり、あるいは日々の暮らしの中で伝えられてきました。

アイヌの昔話などにも、様々な歌や踊りが、儀式のときに行なわれたり、日々の生活の中で楽しまれるようすを語っているものがあります。日本の江戸時代や明治の初期に書かれた文献の中にも、このような歌や踊りの記録が見られます。

Among the several forms of culture the Ainu people have long fostered are folk performing arts represented by a variety of music, songs and dance.

Music, songs and dance have developed in every one of the ethnic groups and have been transmitted through performances on such occasions as festivities, rituals and in informal activities in daily life.

Some vignettes from old Ainu folk-tales tell how very much songs and dances of various sorts are enjoyed by Ainu people when performed during rituals and in the course of daily life. Activities of the Ainu people such as these are described in some of the documents written by non-Ainu people in the Edo and early Meiji periods.

Introduction to the Folk Performing Arts of the Ainu People

明治時代以降、アイヌの芸能をめぐる環境は大きく変化し、昔のような踊り方や歌い方、楽器の演奏などを受け継ぐ人はだいに少なくなりました。その背景として、他の民族や社会と同様に、ラジオやテレビをはじめとする新たな娯楽が登場したり、学校教育などを通じて西洋風の音楽が広まったことなどが挙げられます。また特にアイヌ民族の場合、いわゆる同化主義のもとで、伝統的な歌や踊りを演じる機会が減少したことなども要因です。

そのような時代の中でも、儀式などで集まったときに歌や踊りを楽しむことは各地で見られましたし、ふだんの暮らしの中で折りに触れて昔ながらの歌を口にした人も多かったといえます。また、観光地などで披露^{ひろう}することを通じて伝承されてきた歌や踊りもあります。

Drastic changes in the climate surrounding Ainu folk performing arts since the Meiji era have resulted in a gradual decrease in the number of people who have learned traditional Ainu styles of dancing, singing and the playing of musical instruments. This is attributable to the emergence of new forms of entertainment, to radio and television and to the wider introduction of Western music influences as is the case with other ethnic groups and societies. Yet, the assimilation policy, particularly in the case of the Ainu, has been another factor contributing to the fewer opportunities of experiencing their traditional performing arts.

Despite the cultural changes of the times, their performing arts, including singing and dancing, were still appreciated when they gathered for rituals and ceremonies and some people still sang their traditional songs in their daily lives. Some of the songs and dances have been preserved and transmitted through performances for visitors at tourist sites.

現代では、他の多くの人々と同様に、アイヌも一人ひとりが様々な歌や踊りに親しんでいます。それとともに、先祖から受け継がれてきたものを学び伝えることも行なわれています。

近年、アイヌの伝統文化の復興・継承の気運の中で、アイヌの芸能についても関心が高まり、学習・伝承へ向けた動きもおこってきました。道内のいくつかの地域では、舞踊の保存会などが組織され、それぞれの地域で伝承されてきた歌や踊りを学んだり、新たに他の地域のものを採り入れたりする活動が行なわれてきました。



写真 1 帯広カムイトゥウボボ保存会の公演
(1997年、春採アイヌ古式舞踊釧路リムセ保存会 30 周年記念公演)

Today, every Ainu person enjoys various sorts of songs and dances including both traditional and contemporary ones, just as do many others. Some of them are learning and transmitting traditional styles of performing arts which their ancestors have passed down.

Amid the recently increasing trend toward restoration and transmission of traditional Ainu culture, more Ainu people today are learning and transmitting their performing arts in their respective areas, while in some cases adopting the traditions of other areas in their own regions. Organized efforts to

1984(昭和59)年と1994(平成6)年には、これらの保存会のうち17団体が国の重要無形民俗文化財の指定を受けています(31ページ)。こうした動きの中で、各地で公演なども行なわれるようになり、伝統的な歌や踊り、楽器の演奏を録音・録画したものが出版され、鑑賞や学習に利用されています。現代的な音楽の要素を採り入れるなどした創作活動も見られます。

この小冊子では、これらの中から、伝統的な歌や踊りと楽器について紹介します。

アイヌの伝説や神話などの物語のほか、祈りの言葉、あらたまった場での挨拶あいさつの言葉などには、語られるときにメロディーがついており、歌のように感じられるものもあります。これらのうち、物語については、このアイヌ文化紹介小冊子の第6冊目『口頭文芸』でとりあげています。

preserve Ainu traditional dancing have been made in some areas in Hokkaido. These activities led to public performances at various locations and traditional songs and dances were recorded for learning and pleasure.

Some elements of contemporary music have been incorporated into the innovative styles of performance which are emerging today.

This handbook shows some of the wide variety of traditional styles of Ainu folk performing arts.

アイヌの芸能についての調査や採録の歴史

早い例では、17世紀末の日本の江戸時代の文献に、少しずつですが、アイヌの踊りについての記録が見られます。1799年に成立したとされる『蝦夷島奇観』^{えぞしまきかん}には、踊りや歌に関する説明が見られ、楽器や踊りのようすが描かれています。

20世紀になると、録音や録画によってアイヌの芸能が記録されるようになりました。早くは、1897年にフランスのリュミエール社が日本各地を撮影した映像フィルムの中に、室蘭での録画とされるアイヌの踊りの映像が含まれています。1900年ころには、ポーランド出身のプロニスワフ・ピウスツキ(1866～1918)が、サハリン(樺太)^{さうかん}で現在のレコードにあたる蠟管を使ってアイヌの歌や物語の録音を行なっています。



写真2 蝦夷島奇観(復刻版)

1923（大正12）年には、音楽学者の田辺尚雄（1883～1984）がサハリンでアイヌの音楽の録音を行なっています。同じ頃から、金田一京助（1882～1971）、久保寺逸彦（1902～1971）、知里真志保（1909～1961）らアイヌ語やアイヌ文化の研究者も、物語とともに歌や踊りを採録しています。

戦後には、伝統的な芸能の記録を目的とした組織的な調査も行なわれるようになりました。例えば、日本放送協会（NHK）の事業の中でも札幌放送局による1961～63（昭和36～38）年の調査では、北海道の各地で300名以上の伝承者から採録しています。



写真3 日本放送協会（編）『アイヌ伝統音楽』
上記のNHK札幌放送局による調査をもとに刊行されたものです。ソノシートが付いています。



写真4 田辺秀雄監修
『南洋・台湾・樺太諸民族の音楽』
田辺尚雄が1923年にサハリンで録音した音楽も収められています。

[2] 歌と踊りと楽器

アイヌの歌や踊りには、日常の暮らしの中で歌われるものや、儀式のときに演じられるものなど、様々な種類があります。

伝統的な踊りは歌とともに行なわれます。手拍子などを除いては声だけで行なう曲がほとんどですが、古い記録やサハリンの踊りには楽器の伴奏をとこなうものもあります。

それぞれの歌、踊り、楽器の種類呼び名は地域により違いがあり、同じような呼び名でも地域により内容などが違うこともあります。例えば、立って輪になって歌いながら踊るものをいぶり胆振のしらおい白老地方では主にリムセと呼びますが、日高のささる沙流地方では主にホリッパといい、旭川地方では主にウポポと呼んでいます。



Ainu songs and dances are classified in various categories such as songs that are sung during everyday life and those performed during rituals and ceremonies.

Traditional dances are performed accompanied by singing. These songs generally are sung by keeping time using hand-clapping alone. References to singing in other styles of performance which were accompanied by musical instruments are recorded in old documents, and some Ainu dances in Sakhalin are performed to instrumental accompaniment.

Songs, dances and instruments

アイヌの芸能は、特定の専門家によって作られたり演じられたりしてきたものではありません。その多くは、それぞれの地域や家庭で、実際に歌ったり踊ったりすることを通じて伝承されてきました。

メロディや踊りの動きなどを細かに記した楽譜や教本のようなものがあってもありません。歌詞は曲ごとにおおむね決まっていますが、掛け声^かなどを即興^{そつきようてき}的に加えたり、曲の種類によっては歌い手のそのときそのときの感情などを歌詞にして歌うこともあります。

いっぽうで、演じる場がある程度決まっていたり、演じる人が年齢や性別によってある程度決まっている場合もあります。こうした決まり方も地域や個人、時代によって様々です。

The performing arts of Ainu people have never been connected with specific experts. Instead they have been transmitted mostly through the active involvement of family members in singing and dancing at home and in the local communities where the people have resided.

There are no music scores or texts describing the detailed movements of dancing. The words are already determined for most pieces, although singing is at times improvised by adding shouts or substituting words expressive of a singer's emotions at the time, all depending upon the types of songs being sung. Some songs and dances are performed on specific occasions and the age and sex of the performers are determined as well. The rules to determine these things vary depending on area, individual performer and era.

1 歌と踊り

様々な種類の歌や踊りの中から、いくつかをとりあげて紹介します。

座って数人で歌う歌

数人の歌手が漆塗りの器の蓋を囲んで座り、全員で蓋を手で軽く叩いて拍子をとりながら歌います(図1)。

このように二人以上で歌う時の歌い方にはいくつか種類がありますが、比較的良好知られているのは、一人ずつ、または何人かのグループに分かれて、同じ歌を一定の間隔をおいて歌い出す、というものです。ひとつのメロディを少しずつ間をおいて歌っていくことによって、複雑だけれどもまとまりをもった響きを生み出しています。こうした歌い方は、他の踊りの曲などでも使われます。



図1

1 Singing and Dancing

Some of the music, songs and dances from a variety of examples are described in the following sections.

Sitting songs

A few singers are seated around the lid of a lacquer ware container and all parties sing together while tapping the lid to beat time.

Circle dance

All the performers stand in a circle facing the center and dance moving clockwise while singing.

きねつ 杵搗きをしながら歌う歌

穀物などを搗くときに、その動作にあわせて歌います。近年ではこれをひとつの芸能の演目として行なうようにもなりました。作業のための簡単な掛け声のようなものから、ある程度まとまった歌詞を持つものまでいろいろあります。



写真 6 杵搗きのようす

Songs sung accompanied by pounding

The songs in this category are sung in accordance with the rhythms and movements associated with pounding grain. The pieces have been played as part of the repertoire in recent years.

Dances mimicking animal movements

The major components of dances of this kind are body movements mimicking the most representative motions of animals and the dances passed down through the generations vary depending on area. For instance, there are dances for crane, snipe, swift, sparrow, fox and grasshopper.

動物のしぐさをおりこんだ踊り

動物のしぐさを真似た動きをおりこんだ踊りです。地域によって伝承されている曲は様々です。ツル、シギ、アマツバメ、スズメ、ネズミ、キツネ、バッタなどの踊りがあります。

歌詞にも、それらの動物の名称や鳴き声をあらわす言葉が使われたりしています。



写真7 鶴の舞い(アイヌ民族博物館の公演、1998年、国立劇場)

アイヌの伝統的な歌では、音の高い低いだけでなく、声の出し方にもなる音色ねいろを組み合わせたことも、大事な要素となっているようです。

歌の中では例えば、ふつうに話すときとそれほど変わらない声、うなうなのような声、細かい裏声など、いろいろな音色が聞かれます。息を吐いたり吸ったりする音を使う場合もあります。また、ふつうの声と裏声とをすばやく往復させたり、喉の奥を使って声を小刻みに出すなど、独特な響きを出す方法も聞かれます。また、「rrrr」と連続して舌先を震わせる音がありますが、これを鳥のしぐさをおりこんだ踊りの中で鳥の鳴き声として用いたり、他の踊りで掛け声に使ったり、子守歌(14ページ)の中で赤ん坊をあやすための音として歌詞に組み込んだりします。

こうしたいろいろな声の使い方は、曲の中で音楽的な効果を生み出す要素のひとつにもなっているものです。時代や地域、一人ひとりの声の質やその人なりの工夫によって違ってくることもあります。例えば11ページの歌で「ボン」を裏声で歌うなどのように、音色の使い分けなどが伝えられているものもあります。

男性が舞うもの

床をゆっくり踏みしめながら両腕を上下させおごそかに舞います。比較的知られている例では、主に年長の男性が行ない、舞いながら、唸^{うな}るような独特な声を出していきます。このときのメロディには、その人その人に固有な節まわしがあるとされています。このほか、短い祈りの言葉などをおりこんで唱えたりする場合もあるなど、地域によって様々なやり方があるとされています。

男性を主として踊るものには、このほか、弓矢を手にして踊る踊りや、刀を手にして踊る踊りなどもあります。

子守り歌

赤ん坊をあやしたり寝かしつけながら歌うものです。歌詞の内容としては「育てのゆりかごが / 高い天からおりてくるよ / おまえがよい眠りをすれば / 立派な人になるよ」といったものや「泣かないで / おまえは眠るのだよ / 眠らなければ / ばけもの鳥がやってくるぞ」というものなどが知られています。

Dances performed by men

Performers dance solemnly with both arms moving up and down while stepping on the floor slowly and firmly. In other dances which are performed mostly by men, performers dance with a bow and arrow or a sword in hand.

Lullabies

These are songs Ainu people sing while rocking babies and small children to put them to sleep.

Lyric songs

Singers sing to express emotions of joy, happiness, sorrow and love that they feel in their present lives or that they connect with old memories.

自分の気持ちを歌う歌

歌い手が、昔の思い出や、そのとき感じた喜びや悲しみや愛しさなどの気持ちを歌うものです。「ヤイサマネナ」「アヨロロペ」などの掛け声のような言葉や、悲しくて泣けることを表わす「二つの清い涙 / 三つの清い涙を / 私は流す」などの言い回しを歌詞に組み込んだりします。メロディは人により様々です。他の人の歌を覚えて歌うこともあります。

【歌詞紹介】

平取町の鍋沢キリさんに歌っていただいた歌の出だしの部分を紹介します。



写真 8 鍋沢キリさん
(アイヌ民族博物館主催
「アイヌ文化教室」にて)

ホレ コレンナ ホレ ホレンナ hore korenna hore horeнна	
ホレ ホレ ホレ ホレンナ hore hore hore horeнна	
ホレ ホレ チカッ タ クネ hore hore cikap ta ku=ne	鳥になりたい
とり タ クネ ネワネ ヤクン TORI ta ku=ne ne wa ne yakun	鳥になりたい そうしたら
ホレ コレンナ タパン テワノ hore korenna tapan te wano	今から
ク キ ホブニ ク キ ホブニ ku=ki hopuni ku=ki hopuni	私は飛ぶ 私は飛ぶ
ネワネ ヤクン ホレ ホレンナ ne wa ne yakun hore horeнна	そうしたら
ホレ ホレ ホレ ホレンナ hore hore hore horeнна	

(1994年9月6日に録音したものを当センターで文字にしたものです)

2 楽器のいろいろ

こうきん 口琴

写真 9、10は、一般にこうきん口琴と呼ばれる楽器の一種です。



写真 9 竹製の口琴



写真 10 金属製の口琴

竹製の口琴は道内でも比較的多くの地域に伝わっていますが、昔はそのような楽器はなかったというところもあります。

長さ10～15cmでいどの薄いもので、中央にべん弁（振動させる細い部分）となる切り込みを入れてあります。弁の根もとあたりにつけた紐ひもを引いて弁を振動させ、それを口の中の空間に響かせます。このとき、息を吸ったり吐いたり、舌を上下させたり、口の中を広くしたり狭くしたりすると、音の響き方がいろいろに変わります。その変化を曲として繰り広げていきます。

多くの場合どくそう独奏するほか、数個の口琴で合奏したりもします。

金属製の口琴は、主にサハリンで見られます。弁の先端は少し反^そっています。弁は直接指^{はじ}で弾くなど、竹製のものとは演奏のしかたが違います。

口琴は、他の民族にも様々な材料や形のものがみられます。



写真 11 『安東ウメ子・ムックリの世界』幕別町教育委員会
幕別町在住の安東ウメ子さんによる口琴の演奏を収録
したCDです。

2 Musical instruments

Ainu jaw's-harp

Bamboo instruments are distributed relatively extensively throughout areas of Hokkaido, although instruments of this type did not exist in the past in some areas. Metal instruments are seen mainly in Sakhalin.

こげんきん 五弦琴

サハリンや北海道の一部には、弦^{げん}を指^{はじ}で弾いて演奏する楽器が伝わっています。弦の数がたいてい五本であることから五弦琴^{こげんきん}と訳されたりしますが、弦が六本や三本のものもあることが知られています。

演奏は、独奏するほか、何人かで合奏することもあります。

また、短い歌詞が伝わっている曲もあり、五弦琴^ひの弾き手が同時にそれを歌うこともあります。

そのほか踊りの伴奏にも使う曲として伝えられているものもあります。



写真 12 五弦琴

楽器の曲について

伝統的な演奏では、口琴の曲も五弦琴の曲も、基本的には動物の鳴き声やその他の自然界の音の模倣^{もほう}などを中心に組み立てられています。何の模倣であるかによって曲の呼び方を区別したりもしますが、必ずしも固定的な題名や作曲になっているというわけではありません。

Five-stringed zithers

These musical instruments are played by plucking the strings with the fingers.

Other Types of Musical Instruments

その他の楽器

サハリンでは、写真のような太鼓^{たいこ}を用いていたことが知られています。直径は40～50cmくらいで、楕円形^{だえん}の木の枠^{わく}の片面に革を張ってあります。裏側に持ち手があり、細長いへら状の木に毛皮などを巻いたバチで革や枠を叩いて鳴らします。楽器というよりも、儀式の道具として使われていました。

このほか昔の文献には、笛のような楽器として、ヨブスマソウの茎を利用したものや、木の皮をねじり巻いて管としたものなどがあることが知られています。



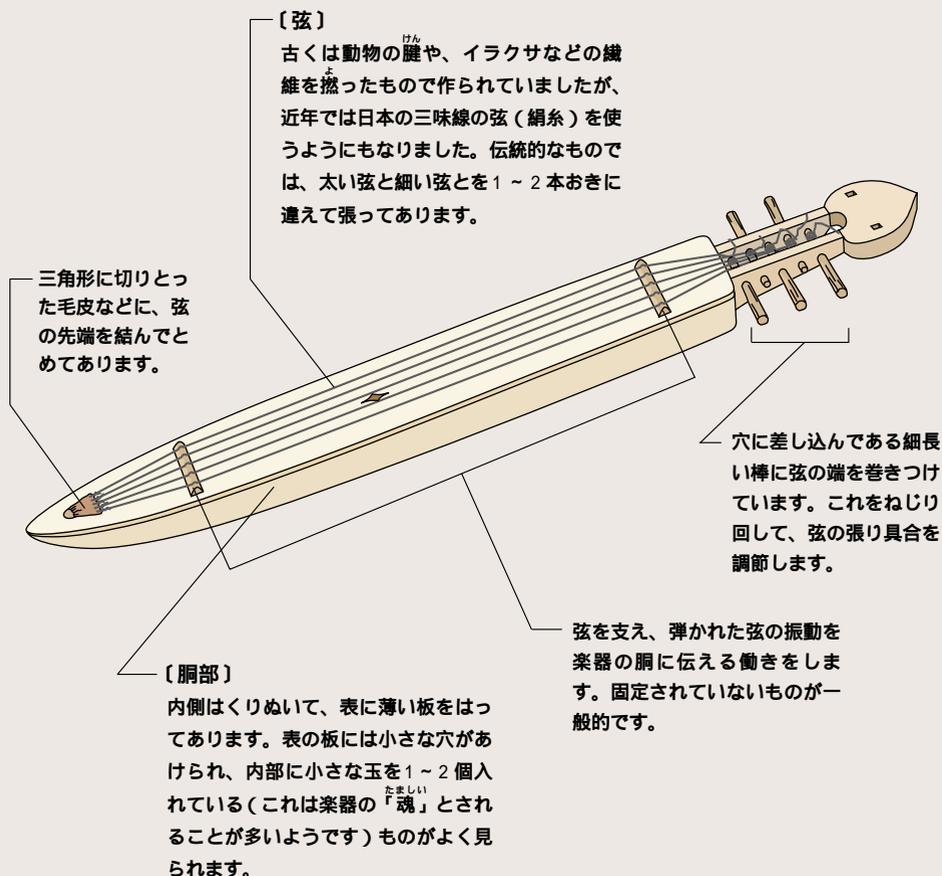
写真 13 太鼓とバチ



写真 14 松浦武四郎『蝦夷漫画^{えぞまんが}』に描かれたさまざまな楽器のようす

五弦琴のつくりと演奏のしかた

【五弦琴のつくり】



【演奏のしかた】

演奏の前には、それぞれの弦がその曲の演奏に必要な高さの音になるよう、張り具合を調節しておきます。このときの基準となる音の高さはその人の声の高さに合わせるなどして決めていきます。

伝統的な演奏では弦を指で押さえて音の高さを変えることはせずに、両手の指先でじかに弾きます。

写真15は座って演奏しているところです。また写真16のように、立って弾きながら歌ったり踊ったりすることもあります。

サハリン出身の西平ウメさんによる演奏のようす



写真 15



写真 16

[3] 芸能について学ぶために

アイヌの芸能について学ぶための基本的な文献や、歌や踊り、楽器の演奏などを視聴することができる資料などを紹介します。現在でも書店などで入手できるものには価格を記しました。

1 文献

概説書

アイヌ民族博物館監修『アイヌ文化の基礎知識』草風館
1993年 1,553円（税別）

金谷栄二郎、宇田川洋『ところ文庫2 樺太アイヌのトンコリ』
常呂町郷土研究同好会 1986年

アイヌの五弦琴についての概説書です。主な研究書や古い文献を
紹介し、五弦琴の構造や作り方、演奏方法などを掲載しています。



『アイヌ古式舞踊』財団法人アイヌ民族博物館 1986年 800円（税込）
白老町に伝承されている歌や踊りについての写真と説明文が掲載されています。

『岩波講座 日本の音楽・アジアの音楽 別巻』岩波書店 1989年 7,767円（税別）
アイヌ音楽の概説として、谷本一氏による「アイヌ音楽」が掲載されています。

日本伝統音楽芸能研究会（編）『邦楽百科入門シリーズカセットブック 日本の音 声の
音楽3』『同 日本の音 楽器の音楽』音楽之友社 1988年 7,160円（税別）

には子守歌についての小林幸男氏による
解説文が、にも口琴についての同氏による
解説文が掲載されています。付属のカセ
ットテープに、いずれも1971年に行なわれ
た国立劇場での公演から収録した曲が入っ
ています。CDブック版もあります。



専門書、調査報告書など

日本放送協会(編)『アイヌ伝統音楽』日本放送出版協会 1965年 7ページ

谷本一之『アイヌ絵を聴く 変容の民族音楽誌』北海道大学図書刊行会 2000年
16,000円(税別)

アイヌの芸能の変容について考察した著作です。今世紀初頭のサハリンでの録音から現代までの録音を収めたCDが付いています。

知里真志保『アイヌに伝承される歌舞詞曲に関する調査研究』文部省文化財保護委員会
1960年(『知里真志保著作集2』平凡社 1973年 所収)

アイヌの歌、踊り、物語など、口頭で伝承され演じられるもの全般について論じたものです。

《教育委員会等が発行する報告書など》

門別町郷土史研究会(編)『沙流アイヌの歌謡 解説』門別町郷土史研究会 1966年

北海道アイヌ古式舞踊連合保存会(編)『北海道アイヌ古式舞踊・唄の記録』北海道アイヌ古式舞踊連合保存会 1987年

日本民俗舞踊研究会(編)『北海道アイヌ古式舞踊』日本民俗舞踊研究会 1987年

日本民俗舞踊研究会(編)『カラフトアイヌ古式舞踊』日本民俗舞踊研究会 1985年

北海道教育委員会(編)『アイヌ古式舞踊調査報告』 ~ 北海道教育委員会
1990~92年



2 視聴覚資料

《CD(コンパクトディスク)など》

『日本の民族音楽 日本のハーモニー』キングレコード 1991年 2,718円(税別)
平取町二風谷で録音された歌3曲が収録されています。音源は1977年に発行されたLPレコードに収録されていたものと同じです。

『日本の民族音楽 楽器玉手箱』キングレコード 1991年 2,718円(税別)
サハリン出身の伝承者から手ほどきを受けた演奏者による五弦琴の演奏と、阿寒町の伝承者による竹製の口琴の演奏が3曲収録されています。

『安東ウメ子・ムックリの世界』幕別町教育委員会 1994年
本文17ページ参照

『アイヌのうた』ピクチャーエンタテインメント 2000年
1,995円(税込)
平取アイヌ文化保存会による各種の歌などが収録されています。

『昔話 ふるさとへの旅【北海道】』キングレコード
1999年 1,905円(税別)
鶴川町、本別町の伝承者らによる歌などが収録されています。

『ムックリの響き：アイヌ民族の口琴と歌』日本口琴協会 2001年 3,000円(税込)
阿寒町、弟子屈町、標茶町、浦河町の伝承者らによる口琴の演奏や歌が収録されています。

『アイヌラマチ(アイヌの魂)からのメッセージ』関東ウタリ会 2001年 3,000円
関東ウタリ会会員による五弦琴の演奏や歌が収録されています。



『ケウトウム ピリカ 子どもたちと愉しむアイヌ舞踊』パストラルレコード（販売：
ゆう
游企画） 2000年 2,500円（税込）

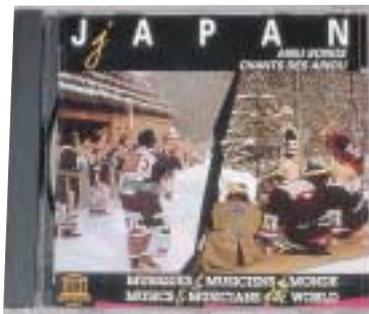
十勝地方に伝わる歌を中心に22曲を収録しています。主に学習教材用として製作されたものです。

『世界民族音楽大集成 3 アイヌの歌と踊り』『同 4 アイヌのユーカラ』キングレコード
1992年

シリーズ100枚組のうちの2枚です。『3』には白老町、阿寒町、平取町、静内町出身の伝承者らによる歌が、『4』には常呂町在住の伝承者による五弦琴の演奏ほかが収録されています。音源は主に1977年にLPレコードにされていたものですが、解説は新たに書き下ろされています。

『UNESCO COLLECTION Japan / Japon Ainu Songs / Chants des Ainou』AUVIDIS /
UNESCO 1993年

日高地方やサハリン出身の伝承者によるいろいろな種類の歌や口頭文芸などが14曲収録されています。1978年に発行されたLPレコードをCD化したものです。



田村すず子『アイヌ語音声資料 4 福満・鶴川の歌謡』（1987年）『同 5 二風谷の昔話と歌謡・神謡』（1988年）『アイヌ語音声資料選集 韻文編』（1997年）早稲田大学語学教育研究所 非売品

早稲田大学語学教育研究所が発行するアイヌ語の教材シリーズです。沙流川流域の伝承者らによる歌などを中心に収録したカセットテープです。

萱野茂『萱野茂のアイヌ神話集成』全10巻 ビクターエンタテインメント 1998年
189,000円（税込）

萱野茂氏が昭和30年代から主に平取町において録音したもので、10巻めに各種の歌などが収録されています。

《ビデオテープなど》

『国際先住民年記念 第6回アイヌ民族文化祭』
社団法人北海道ウタリ協会 1993年
8,000円（税込）

1993年に行なわれたアイヌ民族文化祭のもようを収録したものです。国の重要無形民俗文化財の指定を受けた17の保存会 本文31ページのうち15団体による歌や踊りが収録されています。



藤井知昭監修 『音と映像による新世界民族音楽大系 1. 北・東アジア』
ビクター・平凡社 1995年

LD版（分売可）1枚25,486円、
VHSビデオ版（分売不可）全16巻 200,000円
竹製の口琴や五弦琴の演奏、旭川の保存会による歌と踊り、旭川で行なわれた儀式の一部が収録されています。



財団法人アイヌ無形文化伝承保存会（編）『アイヌ文化伝承記録ビデオ大全集』
財団法人アイヌ無形文化伝承保存会

1976年から1巻ずつ作成され、5巻毎にシリーズとしてまとめて販売されています。現在5シリーズがあります。これらのうち、「釧路川・アイヌの祭事」「十勝川・アイヌのうたと踊り」「鶴川・アイヌの神事と踊り」「彫る・編む・奏でる」「織る・奏でる・祈る」などで、歌や踊りや楽器の演奏を視聴することができます。



『十勝アイヌの唄と踊り』帯広市教育委員会 1993年

十勝地方に伝わる歌や踊り、儀式のようすなどが記録されています。昭和44～46年にかけて記録された映画を再編集したビデオです。帯広市図書館などで視聴できます。

財団法人アイヌ無形文化伝承保存会(編)『アイヌ文化を学ぶ THE CULTURE OF AINU』
財団法人アイヌ無形文化伝承保存会 4,500円(税込)

アナログ式のレコード盤や映画フィルムは、現在では限られた所蔵機関などで視聴できるのみですが、その中から伝統的な歌や踊りを記録した資料の主なものを紹介します。いずれも20年以上前に製作されたものです。

レコード盤

知里真志保監修『アイヌ歌謡集 第1集 石狩 十勝 釧路 胆振 日高』(1948年)『同第2集 北見 天塩 釧路 胆振』(1949年) 日本放送協会放送文化研究所・日本コロムビア
1947年と1948年に北海道の各地で収録された、合計41枚のシリーズになっているSPレコードです。

日本放送協会『樺太アイヌの古謡』日本放送協会 1951年
サハリン出身の人々から1951年に採録した、合計21枚のシリーズになっているSPレコードです。

『アイヌの音楽』日本放送協会 放送業務局資料部音楽資料課 1967年
NHK札幌放送局が1961～1962年に北海道の各地で収録したものから240曲が選曲・編集されています。10枚組のLPレコードです。

本田安次・萱野茂監修『日本の民俗音楽 別巻 アイヌ・オロッコ・ギリヤークの芸能』ピクチャー音楽産業株式会社 1976年

釧路市、標茶町、平取町、旭川市、サハリンの出身者らによる伝統的な歌や楽器演奏などを収録した3枚組のLPレコードです。

田辺尚雄録音・調査、田辺秀雄企画・監修『南洋・台湾・樺太諸民族の音楽』東芝EMI 1978年
本文7ページ

映画フィルム

『北方民族の楽器』NHK放送文化財ライブラリー 1964年 18分モノクロ16mm

知里真志保監修『サルンクルの舞踊』北海道放送 1958年 10分モノクロ16mm

『アイヌの舞踊』北海道教育庁釧路教育局 1962年 15分カラー8mm

『アイヌの古式舞踊』国際ナショナル映画 村田プロダクション 1952年 20分カラー16mm

『ユーカラの世界』NHK放送文化財ライブラリー(第一部1963年、第二部、第三部1964年)30分カラー16mm

3 博物館など

アイヌの芸能に関する音や映像の資料を視聴できたり、楽器などを展示している主な施設を紹介します。

見学・視聴できるところ

〈道内〉

財団法人アイヌ民族博物館： 白老町若草町 電話 0144-82-3914
白老町に伝わる歌や踊りを見学することができます。



写真 17

北海道立ウタリ総合センターアイヌ民族展示室：
札幌市中央区 かでる2・7（7階） 電話 011-221-0462
展示室内に、道内各地の古式舞踊保存会（31ページ）による踊りを視聴できる設備があります。
隣接の図書情報室では、昭和61～平成元年度に製作された『アイヌ古式舞踊』1～4（各50分）や「アイヌ民族文化祭」（北海道ウタリ協会主催）の録画テープなどを視聴できますが、こちらは事前に連絡が必要です。

北海道立北方民族博物館： 網走市字潮見 電話 0152-45-3888
展示室内にある情報検索ボックスという設備で、サハリンの口琴や五弦琴の演奏などを聴くことができます。

平取町立二風谷アイヌ文化博物館： 沙流郡平取町^{にぶたに}二風谷 電話 01457-2-2892
展示室内で、歌や踊りのビデオを視聴することができます。

萱野茂二風谷アイヌ資料館： 沙流郡平取町二風谷 電話 01457-2-3215
館内で萱野茂館長著作のCDなどを聴くことができます。

苫小牧市博物館： 苫小牧市末広町 電話 0144-35-2550
展示室内で、口琴の演奏を聴くことのできる設備があります。

〈道外〉

国立歴史民俗博物館： 千葉県佐倉市城内町 電話 043-486-0123
ビデオボックスというコーナーと第5展示室で、歌や口頭文芸を視聴することができます。

アイヌ文化交流センター： 東京都中央区八重洲 電話 03-3245-9831
アイヌの芸能に関する図書の閲覧やビデオテープの視聴ができます。

国立劇場調査養成部資料課： 東京都千代田区隼町 電話 03-3265-7411
国立劇場での公演のプログラムなどを閲覧できるほか、公演を収録したビデオを視聴することができます。視聴には事前の連絡が必要です。

東京芸術大学音楽学部小泉文夫記念資料室： 東京都台東区上野公園 電話 03-5685-7725
音楽学者の小泉文夫氏による調査録音資料のうち、アイヌの芸能に関するものの一部をインターネット (<http://www.geidai.ac.jp/labs/koizumi/index.html>) で聴くことができます。

国立民族学博物館： 大阪府吹田市千里万博公園 電話 06-6876-2151
ビデオテークという装置で、五弦琴の作り方などのプログラムを視聴することができます。

財団法人大阪人権博物館 リバティおおさか： 大阪府大阪市 電話 06-6561-5891
ビデオのコーナーで、平取町に伝わる歌や踊りなどを視聴することができます。

楽器の展示がある主なところ

網走市立郷土博物館：	網走市桂町	電話 0152-43-3090
函館市北方民族資料館：	函館市末広町	電話 0138-22-4128
紋別市立郷土博物館：	紋別市花園町	電話 01582-3-4236
資料館ジャッカ・ドフニ：	網走市大曲	電話 0152-43-1149
川村カ子トアイヌ記念館：	旭川市北門町	電話 0166-51-2461
北海道大学北方生物圏フィールド科学センター植物園（旧・農学部博物館）：	札幌市中央区	電話 011-251-8010
釧路市立博物館：	釧路市春湖台	電話 0154-41-5809
標茶町郷土館：	標茶町塘路	電話 01548-7-2332
帯広百年記念館：	帯広市緑ヶ丘	電話 0155-24-5352
弟子屈町屈斜路コタンアイヌ民俗資料館：	弟子屈町屈斜路市街	電話 01548-4-2128

《国の重要無形民俗文化財の指定を受けた古式舞踊保存会》

【1984年指定】

旭川チカップニアイヌ民族文化保存会
白老民族芸能保存会
平取アイヌ文化保存会
静内民族文化保存会
浦河ウタリ文化保存会
帯広カムイトゥウボボ保存会
春採アイヌ古式舞踊釧路リムセ保存会
阿寒アイヌ民族文化保存会



【1994年指定】

札幌ウボボ保存会
千歳アイヌ文化伝承保存会
鶴川アイヌ文化伝承保存会
門別ウタリ文化保存会
新冠民族文化保存会
三石民族文化保存会
様似民族文化保存会
弟子屈町屈斜路古丹アイヌ文化保存会
白糠アイヌ文化保存会

北海道アイヌ古式舞踊連合保存会：

札幌市中央区北2条西7丁目 かでる2・7（7階） 電話 011-221-0462

財団法人アイヌ無形文化伝承保存会：

札幌市中央区北2条西7丁目 かでる2・7（7階） 電話 011-221-0019

その他本書を書くにあたっての参考文献

- 小林幸男・小林公江「北海道アイヌの歌の諸相」『北海道アイヌ古式舞踊』日本民俗舞踊研究会 1987年
千葉伸彦「アイヌの歌の旋律構造について」『東洋音楽研究』61 東洋音楽学会 1996年
千葉伸彦「藤山ハルのトンコリ演奏について(1)」『北海道東部に残る樺太アイヌ文化』常呂町樺太アイヌ文化保存会 1996年
直川礼緒「日本の口琴の源流」小島美子・藤井知昭(編)『日本の音の文化』第一書房 1994年
谷本一之「アイヌの五弦琴」『北方文化研究報告 第13輯』北海道大学 1958年
谷本一之「アイヌの口琴」『北方文化研究報告 第15輯』北海道大学 1960年
谷本一之「アイヌ音楽音組織の研究」『北海道教育大学紀要 第一部C』17巻2号 1966年
富田歌萌「アイヌの弦楽器“トンコリ”」『北海道の文化』10 北海道文化財保護協会 1966年
近藤鏡二郎・富田歌萌「アイヌの弦楽器“トンコリ”」『音楽学』9巻(1) 音楽学会 1963年
萩中美枝「アイヌの歌謡」『口承文藝研究』19 日本口承文芸学会 1996年
知里真志保「アイヌの歌謡 第一集」『知里真志保著作集 2』平凡社 1973年(初出1958年)
本田安次「アイヌの芸能」『本田安次著作集 日本の伝統芸能 第二十巻』錦正社 2000年(初出1977年ほか)
久保寺逸彦「アイヌの音楽と歌謡」『民族学研究』5巻5・6号 日本民族学会 1939年
田邊尚雄「樺太土人の音楽」『島国の唄と踊』磯部甲陽堂 1927年
河野広道『アイヌの踊』楡書房 1956年
北海道開拓記念館(編)『民族調査報告書 資料編』北海道開拓記念館 1973年
アイヌ文化保存対策協議会(編)『アイヌ民族誌』第一法規出版 1969年

協力(敬称略)

鍋沢キリ 富田友子 西平多美 清水キクエ 杉村満 杉村フサ 久保寺芙美子 児玉マリ
財団法人アイヌ民族博物館 北海道大学北方生物圏フィールド科学センター植物園 国立劇場

写真提供、出典等

- 写真1 『北海道アイヌ古式舞踊写真集』北海道アイヌ古式舞踊連合保存会(CD)1999年
図1 杉山寿栄男画 『アイヌ民族誌』第一法規出版 1969年
写真5、7、8、10、17 財団法人アイヌ民族博物館
写真9、12 北海道大学北方生物圏フィールド科学センター植物園
写真13 『ロシア科学アカデミー人類学民族学博物館所蔵アイヌ資料目録』草風館 1998年
写真14 松浦武四郎『蝦夷漫画』(児玉マリ所蔵)
写真15、16 富田友子
上記以外は当センター所蔵写真



この小冊子は、環境に配慮した用紙を使用しています。

古紙配合率100%・白色度70%

発行

平成13年9月

編集

北海道立アイヌ民族文化研究センター

HOKKAIDO AINU CULTURE RESEARCH CENTER

〒060-0001 札幌市中央区北1条西7丁目 プレスト1・7 5階
TEL.011-272-8801

<http://www.pref.hokkaido.jp/kseikatu/ks-ambkc/hacrc/hp/>

